

革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

# 鳥取県革新懇ニュース

No. 79

2022年12月  
2023年1月  
合併号

〒680-0833 鳥取市末広温泉町211誠ビル3階(鳥取県労連気付)  
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

## 加齢性難聴者の 補聴器購入費助成制度を求めて

三朝革新懇代表世話人代行 森本一巳

### ◆はじめに◆

9月定例議会で、「加齢性難聴者の補聴器購入費助成について」の質問が行われ、松浦町長が「来年度実施できるように検討したい」と答弁された。このニュースが飛び込んできた。高齢者を対象にした補聴器購入費助成制度の新設要望は、三朝革新懇が町身体障害者福祉協会・町老人クラブ連合会に呼びかけ、三者での取り組みをすすめるようとしていた最中の出来事でした。

私たちはこの制度が早く実現することを強く求めるものです。

5月18日の三朝革新懇定例会で、補聴器購入費助成制度は高齢者難聴者にとって大切な制度であり、多くの町民と一緒に取り組むために、町身体障害者福祉協会・町老人クラブ連合会にも打診してみようということになりました。

### ◆取り組みの経過◆

5月18日の三朝革新懇定例会で、補聴器購入費助成制度は高齢者難聴者にとって大切な制度であり、多くの町民と一緒に取り組むために、町身体障害者福祉協会・町老人クラブ連合会にも打診してみようということになりました。

21日には、三朝革新懇名で「高齢者を対象とした補聴器購入費助成制度の新設

要望書について(お願い)」、町への要望書案・革新懇会則・湯梨浜町実施例を両団体の会長に送り、三者で協議できる日を教えてほしい旨お願いしました。両会長とも「趣旨には賛成だが、会長一存では決められないので、理事会・役員会で検討したい」との回答でした。

その後、6月6日に町身体障害者福祉協会の役員会があり、私も役員なので出席して取り組みの趣旨、経過・会の会則を説明し話し合いましたが保留になりました。いい話だし、個人の意見なら協会として要望に行ってもいいが、協会と(私的)組織が一緒にい

三朝革新懇は、この制度が早く三朝町で実現することを望んでいます。私たちが三朝革新懇の取り組みがきっかけになって、町長の答弁を引き出しました。このことは三朝町では初めての経験です。

### ◆おわりに◆

我々は回答の概要から「両会が要望理由を理解され、要望事項には賛成である」と解釈させていただいており、引き続き三者が要望実現に向けて一緒に行動したい考えは大切にしていきたいと思えます。しかし、三朝革新懇の働きかけの弱さから、本会を十分に理解が得られないことも手伝い、一緒に行動ができません。このことで「高齢者を対象とした補聴器購入費助成制度の新設要望」が進まないことがあってはなりません。そこで、三朝革新懇は本要望行動と一緒に取り組みたくない、できることを支援したいと思っています。次の二点をお願いします。

三朝革新懇は、この制度が早く三朝町で実現することを望んでいます。私たちが三朝革新懇の取り組みがきっかけになって、町長の答弁を引き出しました。このことは三朝町では初めての経験です。

また、8日には町老人クラブ連合会会長より「理事会で協議し保留にした。趣旨はいい。三朝革新懇とはどんな組織か? 公的団体と私的団体が一緒に要望するのはいかなるものか。連名で要望するのは困る。町身体障害者福祉協会の考え方を一、両会がこの取り組みの

私たちは、三朝町民が利用しやすい補聴器購入助成制度が実現するように引き続き取り組みをすすめることも、町民のみならず切実な要求実現のために頑張っていきたいと思っています。そしてまた、自治体独自の制度創設とともに、県や国に対しても実現を要求していくことが重要だと考えています。

(10月26日寄稿)

# 安心して住み続けられる制度・政策を求めて 市町村に要請・懇談

鳥取県社会保険推進協議会(社保協)が中心となつて毎年この時期、県内の市町村と懇談する自治体キヤラバン。10月28日の日南町を皮切りに、県内自治体12市町村と懇談を行い、11月28日の三朝町で終了しました。

鳥取市との懇談では、鳥取生協病院MSW(医療ソーシャルワーカー)が、中断患者の事例を紹介しながら「無料低額診療の利用者に

対して院外処方薬の提供を求めました。市の回答は「自治体独自の制度創設は考えていない、国の施策として実施することを県と国に対して要望している」と前進回答は得られませんでした。参加した社保協メンバーからは「命にかかわる問題。自治体が先駆けで行い、国が押されて動き出すこともある。薬代に先行投資して高額な医療費にならないような財政面での

メリットもあり、ぜひ実施に向けて検討をお願いしたい」と迫りました。今後も継続して働かなくてはならない必要があります。懇談を行っていく中で、町村レベルの自治体は丁寧に住民に寄り添う姿勢が見られ、高齢者の移動手段など細やかな対応がされていることを感じました。一方、鳥取市などの市レベルになると「国の政策」を盾に、独自施策の創設に向けては後ろ向きな回答が多く見受けられました。また、加齢性難聴の補聴器購入助成制度は県内でも広がりをみせており、新たに北栄町が今年7月から実施。書面での回答はなかったものの、実施に向けて検討を開始した自治体も生まれています。この前進はキヤラバンの成果です。

その他、18歳までの医療費を無料にすることを国の制度として創設することを求める署名を自治体担当者にお渡ししたところ、北栄町から1388筆の署名が返ってきました。

このように少しずつでも前進を勝ち取りながら、制度改善の声を現場や地域から届け続けることが重要だと改めて感じました。

鳥取県民医連

事務局長 村口康生



担当者(右奥)とやりとりする参加者=11月8日、鳥取市

## 第4回 オンラインシンポジウム

日時: 2023年1月21日(土) 午後1時30分~3時

テーマ: 戦争の心配のないアジアをつくる(仮題)

講師: 大平喜信さん (日本共産党元衆議院議員)

発言者: 現在数名の方に打診中です

鳥取市をメイン会場に、中部、西部の各会場をオンラインで結んで行きます(会場は現在調整中です)

詳細決定次第、チラシ等でご案内します

## 鳥取市議選候補者への「旧統一協会問題」に関するアンケート結果から考える

市民自治を考える会・とっとり 山中幸子

11月20日の鳥取市議会議員選挙の際、私は、予定候補者の方々に、次の質問をしました。「『旧統一協会の高額献金問題』および『宗教二世問題』について、鳥取市においても、被害者の相談に応じる窓口等が必要だと考えますか」という内容です。その結果について報告します。

人事だった社会問題が自分の住む地域にも大きな影響を与えている可能性に驚き、私はアンケートの実施を決めました。

その結果、現職26名中12名と、住所のわかった新人3名中1人から回答を得ることができました。計13名の中で、「相談窓口が必要」は7名、「必要でない」は1名、「その他・どちらでもない」は5名でした。この5名は、旧統一協会は問題があるものの、鳥取市の対応については、より慎重な議論・調査が必要であるとの意見でした。どのようなか考え方をあれ、アンケートに協力していただいた予定候補者の方々には大変感謝しています。一方で、「回答なし」の議員の中に

安倍元総理の銃撃事件以降、メディアでは旧統一協会と政治の関係・高額献金および宗教二世の問題等について、大きく報じられました。そんな折、私は、7月の参議院選挙において、鳥取市が旧統一協会の組織票の影響が大きいと推定される地域として、全国7位となる選挙分析結果(※)を知りました。それまで他

## 市民の共同で政治を変える

代表世話人 長谷川 稔

【地域・職場・青年革新懇全国交流会in東京2022】での発言

鳥取県における革新懇は、革新懇ニュース380部に表れている地道な取り組みが継続されている。なかでも本紙に併せての県版に時々の運動の住民代表などに登場いただく構成にして、つながりや拡がりを感じたい。しかし、最も拡がりが期待できるのは、3年前が候補者を立てて、共産が無得票率31.7%。今回、立憲が候補は先んじて公産が、自民・立民票率7.22%。院選は比例重点区での苦戦は比たうさな。国政選挙は小選挙区で闘われ、他党の候補であっても支援していくところであり、共産党の真骨頂がある。党の力をつけていくうえで、市町村・県の地方議員を確保することに、最大限傾注すべきである。新しい支援者・理解者を増やしていくうえで、革新懇の活動に厚みを増したい。

選挙区で闘われ野党共闘は必

選考区で闘われ野党共闘は必

は、いったん回答したものを取り消す方、市民の個別のアンケートには回答しないという方が多く、社会的に関心のあるテーマについて、候補者の考えを知る機会が奪われたように感じました。

NHK NEWS WEBによ

ると、今回の鳥取市議会議員選挙の投票率は、39.15%となり、過去最低を更新したと報じられています。主権者教育の問題もあり

※三春充希☆未来プロジェクト「旧統一協会の組織票分布の推定」<https://note.com/miraisyakai/n/95b4b79b8e7>